

平成26年度採択 領域開拓プログラム(公募型研究テーマ)
◆課題:「情報メディア発展のもとでの新しい地域研究」
◆研究テーマ:「地域社会の災害レジリエンス強化に向けて—SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究」

<研究代表者>

古澤拓郎: 京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科/准教授

<専門分野> 東南アジア地域研究、人類生態学

<Webページ>

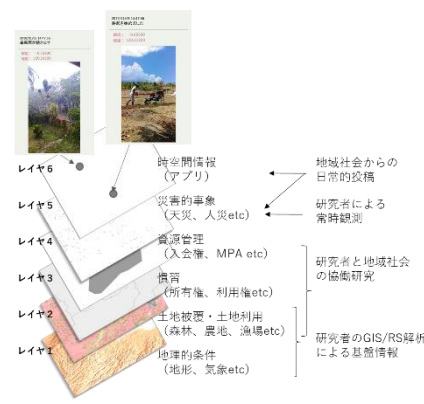
http://takurof.tumblr.com/

<研究目的、概要>

- ・ICTの発展による、地域研究におけるフィールドワーク優位性のゆらぎ
- ・アジア・太平洋の地域社会における様々な課題
災害・環境破壊・伝統知の消失

地域社会と研究者が、リアルタイムに相互に協力しながら、伝統知を用いたレジリエンスを高める必要性

- ・スマホやSNSによる対話型協働
- ・クラウドを通じた衛星データと現地情報の融合
- ・研究成果の地域還元



ICT技術を用いた新しい共時空間型・実践型地域研究により、課題解決に貢献する

<異分野間での研究プロジェクト運営>

研究アプローチはフィールドワーカーの中でも量的情報(自然科学系)か質的情報(人文社会系)の専門か、またGIS等のICTを用いるかで違いがあったが、特定の地域・時間に集中して共に解決策を考えることや、一般人・現地に分かりやすく伝える方策を練ることで価値観を共有することができた。

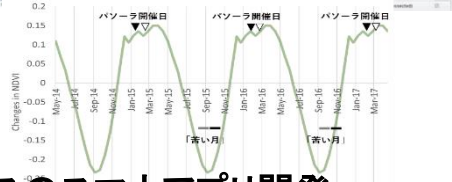
<研究成果、波及効果等>

・共時空間型地域研究

例1) サバナ気候農耕における火入れが山火事の原因になっていた。Facebookによる、火入れや山火事に関する投稿を、人工衛星データと統合し、在来農耕の火入れのパターンを解析した。



例2) 植生が増減する周期変化を人工衛星データから数理モデルにより抽出し、伝統的な季節儀式との関連を解析した。



・地域研究/災害レジリエンスのスマホアプリ開発

場所・時間・出来事・写真を記録し、SNSでの情報発信や救援依頼をできるアプリLOCOPASを開発した。(日本語・英語・インドネシア語; iOS/Android)

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.entaworks.locopas&hl=ja>
<https://itunes.apple.com/jp/app/locopas/id1264422250>

- ・波及効果
- ・LOCOPASアプリの防災・地域研究での活用
- ・国際情勢等に左右されず継続できるICT活用型の地域研究へ

